



認知症の薬物療法

施設サービス課 木口 良輔

7月30日 東播淡路支部研修会が 舞子ヴィラ神戸で開催され出席してきました。老健施設「希望」の母体病院である、明石土山病院（精神科）の診療部長 前田 憲作先生の『認知症の薬物療法』について講義がありました。

冒頭に精神科病棟は、ひと昔前は統合失調症患者が多かったが、現在は認知症による入院患者が多数を占める時代が変わった。そのため援助者が正しく認知症を理解することが重要と話がありました。また、認知症の中核症状（記憶障害や見当識障害、理解・判断力の障害）は老化による自然な変化であり、すぐに薬物療法に繋げるのもどうか……。ただ、そこから派生する BPSD（幻覚・幻視、暴力・暴言、徘徊・睡眠障害といった周辺症状）に対しては、時に薬物療法も必要であり薬剤が不安や興奮・幻覚などの症状を速やかに軽減し、生活の安定をもたらす重要な手段なる場合がある事を学びました。

私は「精神薬」という言葉に抵抗を感じることもありましたが、適切に使われれば本人の苦痛を軽減し、介護者の負担も減らすという双方にとって大きな利点があることを再確認できました。むつみ荘は利用者の方々にはリハビリを受ける生活の場です。薬だけに頼るのではなく、安心できる環境づくりや生活リズムの調整、声掛けの工夫など、非薬物的な支援で症状が落ち着くことも多々あります。薬の効果と副作用を理解した上でまずはケアを中心に、必要な場合に限り薬物療法を組み合わせることで、その人らしい穏やかな生活を支えていきたいと感じています。今後も多角的な視点から最適なケアを模索していきたいと思います。

病院に 猛暑外来 できそうね

ほとんどの 病名揃う クラス会

温度計 土日も 昼夜も 忘れてる

令和8年 大 暑

